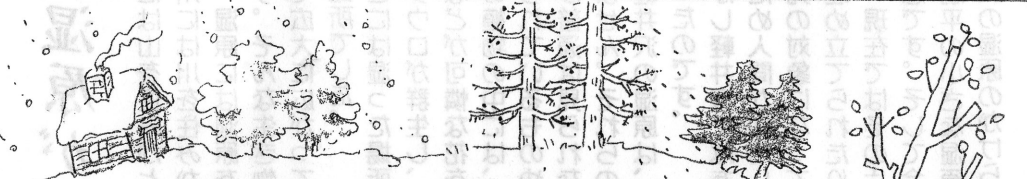



われもこつ 第19号

2005年7月13日 発行





大正時代、軽井沢町における湿地面積はおよそ150ha。
それが現在わずか3.64ha、ここまで私たちは自然を
破壊してしまいました。

軽井沢の湿原が今・・・……………p.2



自然が好き、
人間が好き、
だけど軽井沢・・・



軽井沢の貴重な植物 —ハナヒョウタンボクと
オニヒョウタンボク— ……………p.2

野山の恵みでおいしいレシピ……………p.4

道端に咲く花 —ササバギンラン— ……………p.7

軽井沢の湿原が今・・・

山には山を住みかとする生き物がいるように、川には川を住みかとする生き物がいるように、湿原には湿原を住みかとする生き物があります。そんな生き物たちにとって軽井沢にかつて広大に広がっていた湿原は、楽園のような場所でした。

そこには湿った場所を好むサクラソウやアマフウロが群生し、ミスズドリやサワヒヨドリなどが可憐な花を咲かせていました。これらの植物の中には、もともと全国でも分布が限られているものや、標高の高い山の湿原でしか普通は見られないような植物が少なくありません。それらの植物が当たり前に見られた軽井沢の湿原は、まさに湿原の植物の宝庫だったのです。

しかし軽井沢ではあまりにも当たり前にあったため人間が利用しにくい湿原は、大規模な開発の対象になってきました。湿原そのものが埋め立てられたり、乾燥化させられてしまい、現在ではその片鱗をみつけるのも困難な状態です。そして今、開発されようとしていく扇平の小さな湿原は、その大切な大切な軽井沢の湿原のかげらの一片なのです。

<N>

● 軽井沢の貴重な植物

ハナヒョウタンボクと
オニヒョウタンボク

(スイカズラ科)

ハナヒョウタンボクは、軽井沢町の中でも限られた場所にしかない希少種。

環境省の絶滅危惧ⅠB類。湿原の周りなど、他の植物にとって生育しにくい環境で生き残ってきました。オニヒョウタンボクは、「ヤエガワ」と方言で呼ばれ、町内のいたるところでふつうに見られます。幹の皮が白く縦に裂けてはがれているので気がつきやすい、スイカズラの仲間。この二つとも、日本では限られた場所にしかない大切な植物です。ところが、アジア大陸には同じ種が分布しています。なぜ軽井沢町に生き延びているのでしょうか？それは、この二つが、氷河気候の生き残りだからだそうです。今までもずつと元気で生き延びてきたんだから、これからも大切にしたいものですね、いつまでも・・・。



ハナヒョウタンボク

軽井沢の町は「ミニバブル」、毎日、小さな林が切り開かれ、土が盛られ、まいったいらになった土地に外国の牧草の種が蒔かれ、売られていきます。つい最近も、扇平のヤチ2万坪を別荘団地にしようという開発計画が明らかになりました。水河時代からの生き残りのハナヒョウタンボクやオオヤマカタバミ（ともに絶滅危惧種）の生息地です。県の希少種に指定されているルリソウ、サクラソウもたくさんあるところですよ。

こんなことをいつまでも続けたら、軽井沢の雰囲気は東京の郊外分譲地のように変わってしまうのではないのでしょうか？ 子供や孫たちによりよくして受け渡すべき大切な自然環境を、わたしたちの世代が勝手に無くしてしまっていないのでしょうか？

ヨーロッパでは、自然環境復元の動きが盛んです。川のコンクリートの護岸工事をやめて、自然護岸に変えているのがヨーロッパの人たちの

考え方です。軽井沢は、水河時代から生息しているハナヒョウタンボクやオオヤマカタバミの生息地を何の変哲も無い別荘地に変えようというのでしょうか？こんなことを続けているのは、長い目で見れば、軽井沢の価値を低め、子供たちや孫たちに伝える一番大切な財産がなくなってしまうんです。自然を壊したら、元に戻せません。種は、絶滅させたら、戻せません。

2005年6月30日(木)テレビ信州(TSB)、
夕方のニュースでの「バブル再び！
軽井沢での異変」報道を見て！

まず若い不動産業者の笑顔に腹立たしさを感じました。こんな若僧が得意げに、軽井沢の自然を破壊しているとは…！インタビューでは「まだまだ土地がある。」と答えていましたが、それは「軽井沢の自然をこれからも破壊し続けます…」と言っているようなもの。無神経な発言にびっくり仰天！

取材には転入者の一人も答えていました。実は私のHP『軽井沢の蝶』中の、「私見レッドデータ」のコーナーで、「ヒメヒカゲ」の欄に掲載してある工事現場の写真。あの住人の家の基礎工事なのです。放送中、2年前に転入してきたと紹介されましたが、まさに2年前の2003年7月を境にヒメヒカゲ（環境省レッドデータ絶滅危惧Ⅱ類、長野県版レッドデータ絶滅危惧ⅠB類）が姿を消してしまった土地なのです。本当に悲しいほど、腹立たしく思いました。

業者も住人も軽井沢の自然に対して無責任だと思いました。一体どのようにすれば自然環境に関する情報を、必要な場面で必要な人たちに伝えられるのでしょうか？ 〈栗岩竜雄〉

他の場所では見られない軽井沢独自の自然環境を守らないで、いいのでしょうか？

自然と本当の意味で共生する軽井沢の町を創っていきませんか？ 皆様のご意見を町役場（0267・45・8111）町民ファックス（0267・45・3741）に寄せてください。

——自然が好き 人間が好き
だから軽井沢——

言いたい！

聞きたい！

●おいしいものはトゲトゲだらけ!

うっそうとした林を切り払った土地に建てた我が家の周りに、一番にニョキニョキと生えてきたのは、タラノキ、クマイチゴ、キイチゴ、地ナシ(クサボケ)、山椒など。どれもおいしい芽や、実を動物たちに食べられないよう、神様にトゲトゲのよろいをもらいました。でも人間は、そんなことにはお構いなく、たとえ血だらけになってもおいしいものはちゃんといたできます。タラノメはてんぷらでおなじみですが、昨年亡くなった母から教わった山椒のたべかたを二つ

【山椒の葉のおつまみ】

山椒は、枝先の若葉を3枚一度に採ります。鍋に入れ、酒と塩をふりかけ、しんなりして色が深い緑になるまで、さつと火をとおします。この後母は、1枚1枚きれいに広げ、コタツでカリカリになるまで乾かしていましたが、電子レンジで、3〜4分かけると同じようになります。おつまみはもちろん、お茶うけにもなる上品な味です。

【山椒味噌】

山椒の葉を摘んですり鉢ですります。(大きくなった葉は軸をとりのぞく)味噌と砂糖を同量ぐらい入れてすり、みりんでのばします。分量の割合は好みで。山椒の量が多いと色も鮮やかできれいです。川魚や、なす、こんにゃくなどにぬって焼いてもおいしいし、たけのこなどをあえて食べるのも最高です。一度作っておくとすこく日持ちするの嬉しいです。

そして今の季節、あちこちでのびのび育っているのが山ウド。根っこ白いところは、そのまま味噌をつけて、皮はうぶ毛をとってきんぴらに、煮付けてもおいしいし、葉はもちろん花もてんぷらで夏まで食べられます。我が家の周りのおいしいものでした。
(星野朝子)



景観 豆知識

国土面積の25%が景観保護区!

ドイツでは、「ドイツ連邦自然保護法」で、自然環境を守っています。「自然と景域は、人間の居住地域・非居住地域を問わず、①生態系の生産力 ②自然資源の利用可能性 ③動植物並びに④自然と景域の多様性・個性・美しさが人間の生存基盤として、また自然と景域における人間の保養の前提をなすものとして、永続的な確保に向けて、保護され、保全され、発展されなければならない。」(第1条)

この法律に基づいて、各市町村では、10年後の自分たちの街の目標像を1枚の地図に表した「景域計画」が作成されています(日本生態系協会『ピオトープネットワーク』より)。
わたしたちの住む日本でも、軽井沢町でも、こんな法律と計画が決められるといいですね。
「ドイツにある自然保護区は約5000ヶ所で、国土の総面積の2.3%を占めている。また6000の景観保護区は総面積の25%にあたる。」(ドイツ連邦共和国外務省HPより)



●雑草がゴチぎょうに見えてくる！

今年雑草の成長が速いなどぼやきつ草むしりをする毎日。いつもは捨ててしまうスギナを摘んできて野草粉を作ってみました。ホームベーカリーで食パンを焼くとき大きじ1杯混ぜたらきれいな緑色のパンが出来上がりました。これが予想外のおいしさ！次回はスギナ入りクッキーやケーキに挑戦してみようつと。(抹茶代わりに使えそう。)

【スギナの野草粉】

- ① 摘んできたスギナを洗って、天日干し(真夏なら1日でOK)し、乾燥したらハサミで2〜3cmに切る。
- ② ホーロー鍋か土鍋で①を軽く煎り、水分をとばす。
- ③ コーヒーミルなどで粉末にする。(ペル)

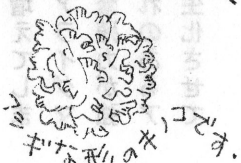


●秋はキノコ採って楽しむ旬の味

ハナビラ茸は、秋に大きな唐松や赤松の根回りに発生する、白舞茸よりも小さな花びらが無数につく白い大きなキノコ。キノコ料理レストランシェフの舞茸レシピからヒントを頂いたのですが、舞茸と同じ「菌切れの良い食感」と「香り」が身上、で和洋どちらにも美味しい、すばらしい食菌です。

【ペンネの「ハナビラ茸」ソース、ツナ風味】

- ① 鍋でオリーブ油を熱し、みじん切り玉ねぎ、にんにくを加え、焦がさないよう香りを出す。
- ② ①にツナ(入れすぎないこと)、裂くように切り分けたハナビラ茸、白ワインを加え、炒める。火を止める直前にオリーブ油、塩、レモン汁、コショウで味を整える。
- ③ 火を止め、ゆでたペンネを②に加え、混ぜ合わせる。
- ④ 深鉢に盛り、おろしたパルメザンチーズを加える。(ふし沢 羽鳥)



5月15日(日)

でいらんぼう広場 2005 に

われもこの会も参加。山野草の苗を持ち込んで「この芽何の芽クイズ」、原っぱの花暦、われもこの会の歩みなど、私達の活動をPRしました。お土産用の軽井沢産ライ麦入りのパン「でいらん棒」も好評！ ご来場下さった皆さん、ありがとうございました。来年もお楽しみに。

● 中部小「軽井沢自然クラブ」にわれもこの会も参加しています。
● 月2回のクラブ活動の日小学校におじゃまして、子どもたちと一緒に山野草を植えたり、学校の周りの生き物を観察したり。3回目の今日(6月28日)は、蝶の研究家栗岩さんをお招きして軽井沢の蝶のお話を伺いました。
● 小学校の小さな机を前に気分は7年生！

外来生物法と

軽井沢の自然

今年の四月から、外来生物法という法律が施行されました。正確には、『特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律』といえます。つまり、外国から来た生物が、生態系、人の生命、身体、農林水産業等に被害を及ぼさないように、今被害を与えている生物や、これから与えそうな生物を、①入れない②拡げない③捨てない、を合言葉に皆で気を付けていこうという法律です。

外国からは、大昔から、人や荷物等に、種などがついて運ばれて来たものがたくさんあります。セイヨウタンポポや、ヒメジヨオン

などは、日本中を占領してしまっただようです。

そのほかに、ペットとして、人の楽しみのために外国から持ち込まれ、野生化してしまった動物などもいます。今回外来生物法で規制されることになったカミツキガメや、今軽井沢で急に増えてしまっただけでも困っているアライグマもそうです。凶暴で、繁殖力が強く、病気をばらまく恐れのあるアライグマは、絶対に野生化させてはいけません。

それから、人のために役に立つからと、わざわざ連れてこられた虫や、動物もいます。今回、この法律には指定されませんでした。やはり野生化が問題になっているものに、セイヨウオオマルハナバチがあります。ビニールハウスのトマト栽培のために輸入さ

れ、大活躍しているこのハチは、逃げ出して野生化しないよう気をつけてはいました。でも小さいハチは、いつの間にか、日本のあちこちで、日本本来のマルハナバチの巣を襲ったり、餌となる蜜や花粉を奪ったりしています。

もし、セイヨウオオマルハナバチが軽井沢で野生化したら、大切なトラマルハナバチが、いなくなつて、サクラソウ

退場!



や、花豆の種もできなくなってしまうかもしれません。そんなことになったら大変です。日本の自然の生態系のバランスが保たれていることが、人にとっても一番心地良いことだと思えます。そのため外来生物法が、これから上手に機能していくよう願っています。

合員の声

昔、職場で、上司から「女性が一番女性らしく見えるのはどんな時かを夫なり兄弟に聞くように」という宿題が出された。

愚問と知りつつ恐る恐る夫に尋ねると「野の花の名前を知っているひと」と思いもよらぬ答が即返ってきた。

無論、山野草を知っているか否かに性差はない。が、その心のありよう、ニュアンスは何となく理解できる。しかし、困ったことに当の私は野に咲く花といったら「すみれとたんぽぽ」しか知らなかったし現在もそれは変わらない。

もっとも例外的に“われもこう”の存在だけは知っていた。子どもの頃、菅平を自分の裏庭のようにして“われもこう”の大群落の平原を遊び回っていたか

らである。仲間同士で“赤玉ポートワイン”と勝手に命名していたことをおかしくも懐かしく思い出される。

そんな私が軽井沢に引っ越して二年目の昨年当たりから突然野山の植物に魅せられてしまった。冬になって地上から退場した植物たちが見えない土の中でしっかりと生きていて、時が訪れるとまた確実に同じ場所から生き生きと姿を現すことに感動してしまったからである。そこには己の身勝手さ不誠実さが充満していることへの気持ちの反転があるからに相違ない。

まず、差し当たっては木や花の名を覚えることから始めよう。その間に“ゆっくり、ゆっくり”と自然との共生を野の花の目線で遊びつつ感得できれば幸いである。
(K. T.)

・道端に咲く花・

ササバギンラン (ラン科)



五月半ばにたまたま通りか

かった神社の大櫓の下に二本のササバギンランを見つけました。草に混じってひっそりと白い花を咲かせていました。昔は野山に行けば、キンランもギンランも普通に見ることが出来ましたが、最近

は殆どお目にかかれなくなった貴重な蘭です。

「まあ、よくぞこんな所に生き残ってくれたものだ。」と嬉しくて神様に心から感謝しました。「人が通る場所に二本も咲いているなんて、地味な花だから皆気がつかないかも知れない。このまま気づかれずに早く花が終わって欲しい。」と願いました。それから毎日ギンランのそばを通って無事を確認しました。

六月初め急ぎの用事で早足で通り過ぎた私は「あれ？」と思いました。ギンランが見えなかった気がしたのです。帰りに寄って調べてみると、ギンランは二本とも消えていました。悲しくて悲しくて心が痛くなりました。

今までこのような経験を何度味わったことでしょうか。貴重な花に出会った時の喜びが大きかった分、喪失感が強過ぎてなかなか立ち直れません。

今日、ギンランがあった場所を通ってみると、櫓の木の下はピーバーで全部刈られていました。「ギンランが残っていても、結局無くなる運命だったのかも知れない。」と複雑な思いで私の心はますます落ち込んでしまいました。

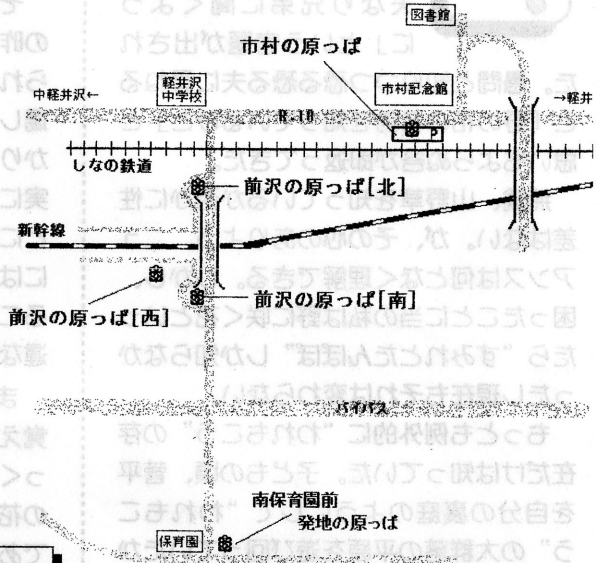
〈Y. K.〉

🌸🌸🌸 われもこうの会の原っぱで会いましょう! 🌸🌸🌸

日除けの帽子、園芸用手袋、長靴で身を固め、草刈り鎌やスコップ持参で来て
ください。会員以外の方の参加も大歓迎です。

7月～11月の作業日と集合場所

- 7月17日(日) ※発地 南保育園前
- 8月3日(水) ※前沢の原っぱ[西]
- 9月7日(水) 市村の原っぱ
- 9月18日(日) 前沢の原っぱ[南]
- 10月5日(水) 前沢の原っぱ[西]
- 10月16日(日) 発地 南保育園前
- 11月2日(水) 市村の原っぱ



※7月17日と8月3日は早朝作業、
朝6:30に集合。その他の日は、
午後1:30からです。

軽井沢町民の方々やゆかりのある方々から
お寄せ頂いた「花の思い出」集

『もう一度見たい!』

軽井沢の草原・湿原』

社会福祉協議会ボランティアセンター、
十二屋商店(中軽)、K I G Iギャラリー
&スタジオ(新軽) 他で販売中!

〈お詫びと訂正〉前号で定価1,000円と掲載致
しましたが、1,200円に訂正致します。お問い
合わせ、ご注文下さった皆様にご迷惑をお掛け
しました事をお詫び申し上げます。

軽井沢サクラソウ会議

●宅配をご希望の方は、

軽井沢サクラソウ会議事務局 Tel.0267(45)1563

E-mail sakuraso@ninus.ocn.ne.jp まで

1時間半くらいの作業の
後は原っぱでお茶会です。
Myカップを
持参して下さい。



🌲🌲🌲🌲 編集後記 🌲🌲🌲🌲

開発イコール町の発展という時代は終わった
と感じている人々がまわりに増えてきたよう
です。これからの軽井沢を一緒に考えていき
ませんか? おたよりお待ちしております。

ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>